

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 飛驒特別支援学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和5年12月1日(金) 9:30~11:30
- 3 開催場所 飛驒特別支援学校ビルクリーニング室
開催にあたり、委員による行事参観を実施した
- 4 参加者

| | | |
|----------------------------------|--|---|
| 会 長 副 会 長 委 員 学 校 側 | 河野 知子 柏木 真司 塩谷 雅 桑原 宏之 白田 美樹 田中 雪子 丸山 永二 松下 孝治 大坪 希美枝 嶋田 喜美子 竹田 万里子 熊崎 礼子 伏屋 俊宏 長瀬 美智代 新屋 郁子 島ノ上 麻美 奥田 和代 松橋 美雪 | 飛驒特別支援学校PTA代表 ウエルコミュニティ飛驒理事長(欠席) 花里まちづくり協議会会長 新宮まちづくり協議会 飛驒特別支援学校高山日赤分校PTA代表 山ゆり学園施設長 高山市社会福祉協議会事務局長(欠席) 高山市福祉課課長 環境ネット(株)サービス管理責任者 高山市市民防災研究所 防災士 校長 高山日赤分校副校長 事務長 教頭 小学部主事 中学部主事 高等部主事 高山日赤分校小・中学部主事 |
|----------------------------------|--|---|

5 会議の概要(協議事項)

(1) 今年度の取組について

本校・高山日赤分校それぞれに、第2回目以降の「学校周知」「キャリア教育」「防災教育」それぞれの取組について説明

(2) 来年度からの取組について

学校より説明

意見1: 学校運営協議会の協議内容を他の保護者にも知ってもらおうとよい。地域の方に支えられていることがわかる。

意見2: 防災について、今後も継続して協力していくが、地域のマンパワーがまだ足りないと感じている。

- 意見 3 : 教職員が辞めないようにすることも必要。教職員の身体への負担を軽減するための介助補助用具の整備を考えるとよい。スーツタイプのものもあり、試着する機会もあるのではないかな。
- 意見 4 : 小、中、高等学校と連携して、空き教室を利用することはできないか。児童生徒は特別支援学校のことを知り、つながる機会になるのではないかな。
- 意見 5 : まちづくり協議会では、4月に年間の計画を立てる。一緒にできることがあれば聞かせてほしい。よいアイデアがあれば計画できるかもしれない。
- 意見 6 : 卒業後の生徒を受け入れる立場として、その生徒しか見ていなかったが、委員になって、小学部児童から高等部生徒まで知ることができた。児童生徒ができることのアピールは大切であり、適正への配慮も必要である。実習等を通して生徒が様々な体験ができる機会を増やせるとよい。
- 意見 7 : 令和 6 年度からの取組として、本人保護者、学校、地域の 3 者の連携はよい。高山市としては、障がい者基幹相談支援センターの担当が 2 名いるが、相談件数が増えている。機能を強化していきたい。
- 意見 8 : 学校以外の生活の場面でも、本人が「わからない」で終わってしまわず、「どうしたらわかるか」という視点で、丁寧に支援していくことが専門性の向上につながる。私たちも学んでいきたい。
- 意見 9 : 防災教育では、学校の中だけで終わらず地域の力を借りることで、地域も困り感を認知する。自分も災害時の車いすの方の避難について初めて考えた。病院等でも必要なことである。当事者が声を出すことが大切である。
- 意見 10 : 児童生徒にとって、実体験できることが非常に大切である。地域の取組への参加が、現在は学校所在地のまちづくり協議会の活動が中心だが、他の地域にも広がっていくとよい。
- 意見 11 : 個人情報に関係しない告知や報告などについては、地域の SNS 等を利用するとよい。
- 意見 12 : 地域のまちづくり協議会には、学校を通さなくても参加することができる。
- 意見 13 : SDG s パートナーシップに登録すると、ボランティア等の協力が得られやすくなる。また学校周知にもなり、つながりを増やすことができる。
- 意見 14 : 学校に、就労先を探したり、地域とのつながりを担当したりする専門の職員を雇うことができるとよい。手伝いたい気持ちはあっても、仕事としてできない人もいるだろう。
- 意見 15 : 生徒の実習や就労先を探す際には、事業所からも情報を発信していきたい。
- 意見 16 : 障がい者雇用を促進していくために、生徒ができることをアピールすることは大切である。また、雇用のための助成金等の周知をしていきたい。

(3) 高等部作業製品販売会の見学

6 会議のまとめ

- ・会議では、学校周知や防災教育の実践等について、学校の取組を肯定する意見が多く出された。学校内で意見を共有し、今後も実践を継続していく。
- ・来年度の取組については、児童生徒の主体性を大切にし、経験の繰り返しや積み重ねを土台とした教育活動を充実させ、保護者や地域に周知することを提案した。また、地域、保護者、学校の連携・協働の在り方を検討していくことについても提案し、承認が得られた。